

# 下土棚遊水地上部利用計画（案）

## 【計画策定の目的・位置づけ】

### 目的

二級河川引地川は、河川改修事業の一環として河川改修及び遊水地整備を進めており、下流区間の河道及び下流部に位置する大庭遊水地は完成し、上流部についても河道整備を進めています。

下土棚遊水地は、引地川の洪水を一時的に貯めて、下流への流出を抑制する治水施設ですが、出水時以外の平常時においては、その空間を多目的に利用することができるなど、地域から大きな期待が寄せられています。

このため、地域の憩い・安らぎの場、地域の活動・交流の場などを新たに創出することを目的に、下土棚遊水地上部利用計画を策定します。

### 位置づけ

下土棚遊水地上部利用計画については、藤沢市の上位・関連計画において、以下のとおり位置づけられています。

藤沢市の上位・関連計画における下土棚遊水地の位置づけ

計画の名称	下土棚遊水地に関連する計画等
都市計画マスタープラン	下土棚遊水地では上部利用等市民とともにレクリエーションの場づくりを促進する
緑の基本計画	下土棚遊水地は緑の軸線となる引地川の河川軸上の「自然とのふれあい拠点」とする
ピオトープネットワーク基本計画	下土棚遊水地とその周辺は保全型ピオトープ核エリアとして位置づけ、藤沢市のピオトープネットワーク形成に向けた拠点として保全、再生、拡大を図る
ふじさわスポーツ元気プラン 2020	河川整備等に合わせた新たなスポーツの場を確保する 引地川遊水地上部利用（下土棚）

## 【計画策定にあたっての配慮事項】

下土棚遊水地の上部利用については、以下の事項に配慮します。

- ・遊水地が洪水貯留機能を有する治水施設であることを踏まえた上部利用計画とします
- ・利用に対する地域の要望を反映させた上部利用計画とします
- ・地域の利用に際して公平性が確保された上部利用計画とします
- ・維持管理と役割分担を踏まえた上部利用計画とします

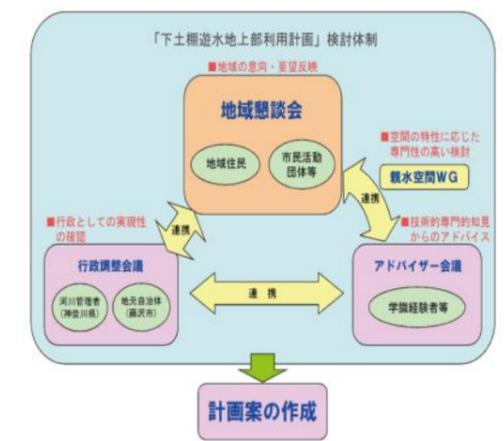
## 【上部利用計画策定の進め方】

### 検討体制

計画の検討にあたっては、地域懇談会、アドバイザー会議、親水空間ワーキンググループ、行政調整会議において地域の意見を取り入れながら実施しました。

地域の意向や要望、公平性や維持管理への意見を反映させるための場である「地域懇談会」「地域懇談会」で検討した計画に技術的アドバイスを行う場である「アドバイザー会議」B池の空間の特性に応じた専門性の高い検討を行う「親水空間ワーキンググループ」計画の実現に向けた調整を行う場である「行政調整会議」

■平成25年度の検討体制(案)

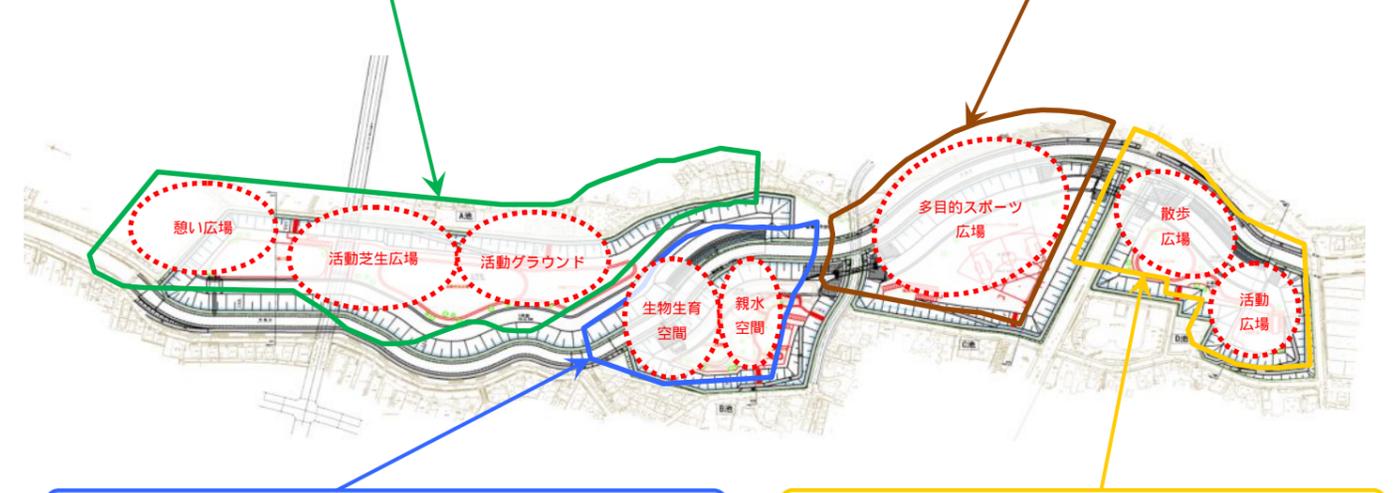


## 【上部利用の基本方針】(下土棚遊水地上部利用計画(素案)より)

### ゾーニング

**A池**  
 利用方針：池の広さを活かし、多様なスポーツ種目の利用、子どもたちの遊び場、イベントでの利用など、様々な利用者が自由に使う場所とします  
 イメージ：様々な活動の空間  
 ゾーニング：憩い広場、活動芝生広場、活動グラウンド

**C池**  
 利用方針：整形な形状を活かすことが出来る施設を導入します  
 イメージ：活発なスポーツ利用空間  
 ゾーニング：多目的スポーツ広場



**B池**  
 利用方針：生物が生育する空間と水と親しむ空間を区分し、それぞれの機能の両立を図ります  
 イメージ：水と親しみ、憩う空間。自然を観察し、学習できる空間  
 ゾーニング：生物生育空間（ピオトープ）、親水広場

**D池**  
 利用方針：高齢者世代の利用を考慮するとともに、複雑な形状の池でも対応出来る施設を導入します  
 イメージ：憩いや休息の「庭」空間  
 ゾーニング：散歩広場、活動広場

【下土棚遊水地上部利用計画(案)】

**A池**

利用方針：池の広さを活かし、多様なスポーツ種目の利用、子どもたちの遊び場、イベントでの利用など、様々な利用者が自由に使う場所とします

イメージ：様々な活動の空間

整備イメージ(概要)

- ・憩い広場、活動芝生広場、活動グラウンドを整備
- ・地元のイベントの際にも活用できる広場



**C池**

利用方針：整形な形状を活かすことが出来る施設を導入します

イメージ：活発なスポーツ利用空間

整備イメージ(概要)

- ・多目的スポーツ広場を整備
- ・少年サッカーや少年野球が行えるグラウンドの整備




**B池**

利用方針：生物が生育する空間と水と親しむ空間を区分し、それぞれの機能の両立を図ります

イメージ：水と親しみ、憩う空間。自然を観察し、学習できる空間

整備イメージ(概要)

- ・生物生育空間(ビオトープ)と親水広場を整備
- ・生物生育空間は、外部と分離した生物優先のゾーン
- ・親水広場は、池や水路で自然に触れられる空間



**D池**

利用方針：高齢者世代の利用を考慮するとともに、複雑な形状の池でも対応出来る施設を導入します

イメージ：憩いや休息の「庭」空間

整備イメージ(概要)

- ・散歩広場、活動広場を整備
- ・高齢者の利用を想定した「庭」のような憩いの空間



【A 池】

利用方針：池の広さを活かし、多様なスポーツ種目の利用、子どもたちの遊び場、イベントでの利用など、様々な利用者が自由に使う場所とします  
 イメージ：様々な活動の空間

憩い広場(約 0.4ha)	活動芝生広場(約 0.6ha)	活動グラウンド(約 0.3ha)
<p>整備イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが安心して遊べる広場とします</li> <li>地元のイベントの際にも活用できる広場とします</li> <li>ベンチ等を設置し、子どもたちの遊びを見守れる設備を備えます</li> <li>地面は地被植物(クローバー、オオバコ等)による緑化を図ります</li> </ul>	<p>整備イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様なスポーツ種目の利用が可能な広場(ペタンク、グラウンドゴルフ等(ニュースポーツ種目)の軽微な運動を行うことができます)とします</li> <li>地元のイベントの際にも活用できる広場とします</li> <li>施設の整備は行わず、利用者が自由に使用できる広場とします</li> <li>地面は芝生による緑化を図ります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>越流堤に近い、植栽を控えた土の広場とします</li> <li>地面は土とします</li> </ul>



備考

駐車場：駐車場の規模は、遊水地全体の利用状況を想定して必要台数を今後検討します  
 法面：河川側法面をピオトープに位置づけて、選択的に草刈りを行うなど、生物の生息空間に配慮した管理を行います

【B 池】

利用方針: 生物が生育する空間と水と親しむ空間を区分し、それぞれの機能の両立を図ります  
 イメージ: 水と親しみ、憩う空間。自然を観察し、学習できる空間

生物生育空間(ビオトープ) (約 0.8ha)	親水広場 (約 0.3ha)
-------------------------	----------------

整備イメージ

- ・親水広場や外周道路からフェンス等で物理的に分離し、生物優先のゾーンとします
- ・水際には法面の勾配や護岸の材質に変化を持たせ、生物の多様性を促します
- ・一次池と二次池を掘り下げてビオトープ池とし、地下水を貯留します

整備イメージ

- ・地下水を利用した池や水路を設置し、子どもたちの水遊びの場とします
- ・一次池側は、自然（水や植物）に触れられる空間とします
- ・ビオトープ池の上にデッキ（栈橋）を設置し、生物観察や学習ができる場とします



B池 面積表

土地利用	面積 (㎡)	割合 (%)
法面	8,573	35.9
越流堤	1,375	5.8
道路	3,042	12.7
管理用施設	330	1.4
一次池	2,921	12.2
二次池	7,645	32.0
合計	23,886	100.0

備考

駐車場: 舗装せず、駐車スペースを確保します  
 法面: B池のビオトープの一部として一体で管理します

【C 池】

利用方針：整形な形状を活かすことが出来る施設を導入します  
 イメージ：活発なスポーツ利用空間

多目的スポーツ広場(約 1.5ha)

整備イメージ

- ・少年サッカー、少年野球が行えるグラウンドを確保します
- ・野球、サッカー以外の運動にも利用可能、舗装は、土を基本とします
- ・サッカーゴールや野球のバックネット等は、移動式の設備により対応します



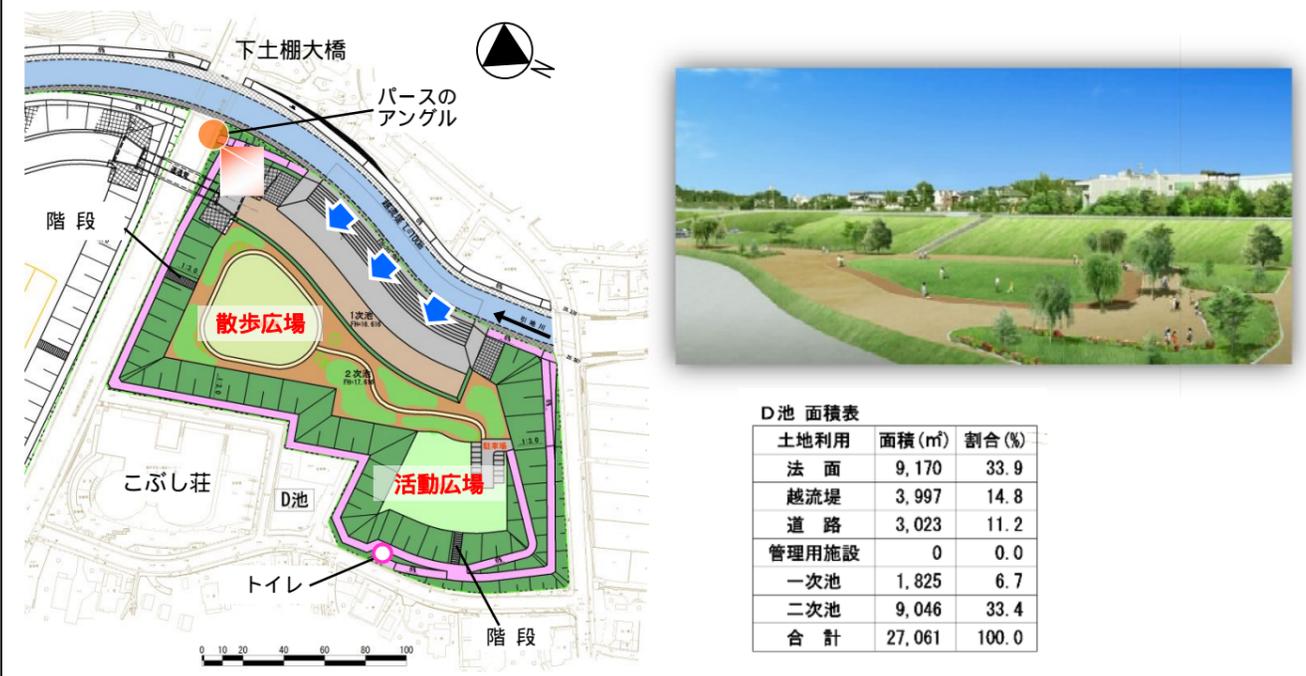
【D 池】

利用方針：高齢者世代の利用を考慮するとともに、複雑な形状の池でも対応出来る施設を導入します  
 イメージ：憩いや休息の「庭」空間

散歩広場(約 0.2ha)・活動広場(約 0.2ha)

整備イメージ

- ・高齢者の利用を想定し、休憩施設やお散歩コースなどを配置した「庭」のような憩いの空間とします
- ・周辺住民や福祉施設からの要望があれば、地域の緑化活動への対応も想定します
- ・散歩広場の地面は、地被植物(クローバー、オオバコ等)による緑化を図ります
- ・活動広場の地面は、芝生による緑化を図ります



備考

駐車場：駐車場の規模は、遊水地全体の利用状況を想定して必要台数を今後検討します。  
 舗装した駐車場のほかに試合時など利用台数が増える場合に備え、舗装をしない(砂利敷き、草地等)駐車スペースを確保します  
 法 面：河川側法面をビオトープに位置付け、選択的に草刈りを行うなど、生物の生息空間に配慮した管理を行います  
 散 水：土埃の飛散を防止するため上水等による散水方法を検討します

備考

駐車場：駐車場の規模は、遊水地全体の利用状況を想定して必要台数を今後検討します  
 法 面：周辺の環境に配慮して、虫等の発生が抑えられるよう、草地等の管理を行います

【全池共通】

備考

トイレ：周囲堤上に設置します。各トイレの規模については、利用状況を想定して、設備の内容を今後検討します  
 河川管理用通路：利用者用通路として活用します。幅員は4mであり、自転車と歩行者の分離構造とすることは困難なため、路面の色分けや利用者マナーの啓発等について検討します